

県高校総体 初戦大勝！

6月3日(金)から5日(日)まで県総合運動公園で開催された高校総体。初戦左沢高校と互いに緊張しての対戦。投手の不正投球などで失点し、大味な試合展開になったが、投手が踏ん張り、三年生を中心に打線が爆発して、15対7のスコアで勝利した。



「みんな緊張して、どうなるかととても心配したが、無事勝つことが出来て良かったです。みんな打撃が調子よく、単打ではなく繋ぐバッティングが出来て良かったです。秀美が何度もイリーガルピッチを取られても諦めないで投げ切ってくれたおかげで勝つことが出来たとおもいます。」



「今大会は、三年生との最後の試合でした。守備では、ランナー3塁の時に投げるのが遅く、ランナーをアウトに捕れなかったのが、ランナーが途中で止まったら、もっとランナーを追って行って、投げるようにしたい。」
「今回の県大会では、直前まですごく緊張してました。左沢戦では、大事なところで2つくらいライナーを落としてしまいました。でもバッティングでは点に繋がるような打球を打てたので良かったです。雰囲気が悪くなった時も声を出していい流れに持って行けたので良かったです。」



「今回は、高校最後の県総体でした。初戦の左沢では、上手く打線を繋げたり守備の間に落とすことができ、ほとんどの打席で出塁できて良かったです。守備ではバッティリーや外野が抑えてくれました。」

「左沢戦のバッティングでは、フライを上げてしまうことが多かった。守備ではレフトとの間のフライを捕れずに、フライを落としてしまうことがあった。間のフライは、声を掛けて捕るようにしたい。バッティングでは、状況を考えて打てるようにしたい。」



「最後の大会でとても緊張してしまいました。一回戦の左沢戦では、焦ってしまって、キャプテンに声を掛けてもらってから少し落ち着くことが出来ました。バッティングでは、調子が悪く打てなく、守備では、パスボールをしてしまい点を取られてしまったこともあり悔しかったです。でも、チームが一丸となって得点でき勝てたので良かった。」



「いろんなプレーがあった。声がなくなると相手の流れになってしまうので、ベンチでは、声を出して打順や打撃方向を伝えた。でも、もっと先輩が良い状態で試合に臨めるように”目配り”を行っていきたい。」

「ベンチの私でさえ、緊張したので、スタメンの先輩方はもっともっと緊張したんだろうなと思いました。瑚十葉と協力して、積極的に声掛けすることが出来ました。野球部が応援に来てくれたので本当に力になりました。」

「一日目は、午後からの試合だということもあり、何か、慣れない感じがしました。それに加え、ハプニングも怒ったりして、すごくハラハラしました。そして、たくさんのヒットが出ました。、達成感より安心感が大きかったです。」

